

いもう 葦毛通信



ヒラタケ

2025年3月12日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 168

葦毛湿原では植物・昆虫・動物等について、皆さんにお知らせしたいと思うようなことが時々あります。葦毛通信の中で随時紹介しようとしていますが、いくつか溜まってしまったので、まとめて紹介します。

1、ニホンカモシカ

葦毛湿原では近年ニホンカモシカがたびたび目撃されています。2024年も6月17日に一の沢湿地の中腹にいるのを見ました（下写真）。少し離れていたのですが、警戒することなく休んでいるようでした。反芻しているようにも見えましたが、しばらくすると森の中に消えていきました。一の沢湿地ではニホンカモシカの糞も見られます。サワギキョウもニホンジカだけではなく、ニホンカモシカにも食べられているのかもしれませんが。



ニホンカモシカ（2024年6月17日）



ニホンカモシカ（拡大） ニホンカモシカの糞（一か所にまとめて糞をします）

2、変形菌(粘菌)

葦毛湿原第2駐車場から葦毛湿原に至る道は森の中を豊橋自然歩道が通っています。数年前に自然歩道沿いのコナラがカシノナガキクイムシにやられ、伐採された木が林道沿いに並べられていました。この枯れ木や切り株に変形菌(粘菌)が見られるようになり、関心のある人たちが観察し写真を撮っています。

変形菌は原生生物に分類され、植物でも動物でもない不思議な生物です。日本では南方熊楠の研究が有名ですが、現在はDNA分析の技術が進み、その分類に関しても様々な意見があります。

下写真はコナラの切り株にいた広義の変形菌でツノホコリと思われるものです。上左の写真が切り株の全体、上右が切り株の下の部分を拡大したもの、下の写真が部分拡大の一部をさらに拡大したものです。細いツノのようになっているのが多数集まっているのが観察できます。



ツノホコリの子実体 (2024年6月26日)



部分拡大



ツノホコリの子実体 (細部拡大)

3、夜の昆虫

葦毛湿原では動物の調査のためにセンサーカメラを設置しています。これまでも多くの動物が撮影されていますが、その中に昆虫と思われるものも映っていました。日中ではスズメバチ、夜間はカブトムシ等が多く映っていました。しかし、これまではセンサーカメラで昆虫の調査を行うという視点がなく、動物調査とは関係ないと思いデータを削除してほとんど残してきませんでした。

葦毛湿原では日中の訪花昆虫に関しては写真を撮って何度か葦毛通信で紹介してきました。葦毛通信 No. 5 では「ノリウツギに集まる虫たち」、葦毛通信 No. 102 では「ムカゴエンジンとキアゲハ」、葦毛通信 No. 118 では「ムカゴエンジンの訪花昆虫」と題した報告をしました。以下の写真、夜の昆虫－1～3は、なんとか消さずに残っていた昆虫と思われる写真です。

夜の昆虫－1はカブトムシです。2023年7月19日の撮影ですが、カブトムシはこれまでも何回か写っていました。カブトムシやスズメバチのように大型の昆虫はセンサーカメラにもよく反応するようです。写真はありませんが、昼間にスズメバチが何度もセンサーカメラに写っていたことがありました。

夜の昆虫－2は2024年7月6日に撮影されたもので、手前と奥にやや大きな昆虫と思われるものが白く写っていますが、種名はわかりません。そのほかにも、小さな昆虫と思われるものがいくつも写っています。

夜の昆虫－3は2024年10月5日に撮影されたもので、画面全体を小さな虫が飛び回っている状態です。動きが速いので、動いた軌跡が線状に写っています。10月の夜にこんなにも多くの昆虫が深夜に飛び回っているとは思ってもみませんでした。動画で確認すると、昆虫の大きさには大小があり、円形に写っているものや動きが速く線状に写っているものもあり、何種類かの昆虫がいるようです。しかし、残念ながら種は特定できません。

これらの昆虫は植物の花粉を運ぶポリネーターである可能性も考えられます。これまでも、夜間に蛾などが訪花昆虫として花粉を運んでいるとされていましたが、葦毛湿原では夜の観察を行ってきませんでした。



夜の昆虫－1（カブトムシ：2023年7月19日）

特に夜の昆虫－3で見られた多くの昆虫の乱舞は採餌行動ではないようなので、繁殖行動なのかもしれません。採蜜に来て花粉を運ぶ昆虫（ポリネーター）を調べるためには花の近くにセンサーカメラを設置すれば写るのかもしれませんが、小さな昆虫を狙ってセンサーカメラを設置するのはかなり難しそうです。

いずれにしても、これまで必要ないと思って削除してしまった写真が多くあるので、何とももったいないことをしたと思います。これからは、できる限り記録を残すようにしたいと考えています。ポリネーターの調査は、昼間だけでなく、夜間も調査できる方法を考えたいと思います。



夜の昆虫－2（2024年7月6日）



夜の昆虫－3（2024年10月5日）